

林業技術センター
普及班便り
(第30回)

いわての林業人々

一 はじめに

今月の普及班便りでは、盛岡市の小笠原清貴さんをご紹介します。



おがさわら きよたか
小笠原 清貴さん

二 人物紹介 【プロフィール】

小笠原さんは盛岡市の生まれ。御祖父さんが代表を務められている有限会社二和木材に勤務されています。

小さなころは林業とはまったく無縁の生活をされていたそうで、高校卒業後、東京の大学に進学され、経済学を学ばれたとのこと。

大学を卒業後、有限会社二和木材に入社され、現在6年目。会社の経理次長として、経理・営業や現場管

理など、街中から山中まで様々な現場を歩かれています。

平成20年度には岩手県が育成している「地域けん引型林業経営体」のプラン認定を受けるなど、林業に積極的に取り組んでおられます。

平日頃前向きに仕事に取り組み小笠原さんに休日の過ごし方をお聞きしたところ、「家でゴロゴロしていることが多い」とのことでした。



ある日の業務風景

三 仕事の状況 (1) 初めての仕事

林業・製材業を営まれていた家に生まれ育ったことから、御祖父さんの経営する会社へ入社することは自然なこと、「そこに道があった」とおっしゃる小笠原さん。

入社後初めての仕事は立木調査だったそうです。

それまで林業とは全く無縁の生活をされていたため、言われるがままに現地で立木調査をし、立木材積・経費などを算出してデータを社長さんに渡したそうです。

社長さんがそのデータをもとにして立木買いを行ったところ、大赤字を出してしまったとのこと。

初めて調査を行った山はヒノキ山で、全く林業の経験がなかった小笠原さんは、漏脂病が出ていたことに気がつかなかったそうです。

この件で社長さんから厳しい指導を受けたそうで、小笠原さん曰く「人格を否定された」とのこと。

そのような経験を糧に、現在では会社の営業から現場管理などの様々な業務に日々邁進されておられます。

(2) 今後の目標

「今の自分があるのは実際に現場で汗を流して働いている人たちがいたからこそ！感謝と尊敬の念を日々新たにしている」とおっしゃる小笠原さんに今後の目標をお聞きしたところ、「少しでも林業・木材業に対して恩返しできるような人間になりたい」とのこと。

大学を卒業するまでは、直接的なかわりはなかったものの、林業・木材業のお蔭で育ってきたという思

いが、一生の仕事として現在の職業を選ばせたのだと感じました。小笠原さんの今後益々のご活躍を期待します。

四 おわりに

普及班便りでは、これからも森林・林業に携わるさまざまな方々を紹介していきます。

皆様の地域で活躍されている方がおられたらご連絡ください。

林業技術センター普及班



H17に導入した木屑焚きボイラー